

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年8月24日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690100625号
法人名	株式会社ショコラ
事業所名	グループホームショコラながかり
所在地	鹿児島県鹿児島市宇宿九丁目9番13号 (電話) 099-802-4834
自己評価作成日	令和2年6月7日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、宇宿の閑静な住宅街に立地しており、すぐ近くに医療機関やスーパーなどあり、利便性に恵まれた環境の中にあります。また、小規模多機能ホームも同じ敷地内に併設しております。ショコラグループとして、グループホームショコラうすき・ショコラうすき通い・共同託児所ぶちショコラ・かごしまショコラ保育園・しょこらクリニックの事業も行ってしております。子ども達との交流を取り入れる中で、ご利用者様の日常生活に活力をもたらし、生きがいや心の充足に繋がる環境作りに取り組んでおります。グループホームながかり独自の理念として、『一日一日を大切に相手に合わせる介護をする』をモットーにご利用者様の気持ちに寄り添い耳を傾けることを重視して日々支援しております。また、個人の尊厳を大切にし、利用者様一人一人の気持ちを尊重しつつ規則正しい生活を送りながら一日でも長く楽しいひとときを過ごしていただけるよう、スタッフ一同で日々努力しております。ご利用者様とご家族様との絆や関係作りを大切に、より良い、充実した時間の提供を行っております。また、施設の中での生活をよくわかっていただけるように、日々様子を写真やビデオに写し、家族に閲覧していただいたり、面会の度に最近のご様子を積極的にご報告したり、お手紙を添えて配布したりしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市役所谷山支所から数km程離れた宇宿の住宅地の一角に平成23年に建物の2階部分に開設されている。1階部分には同法人の小規模多機能ホームが併設されており、防災訓練やイベントの開催、ボランティアの慰問等は合同で実施するなど、交流が図られ協力体制を構築している。ホームは幹線道路から一筋入った地区で個人住宅に囲まれており閑静で平穏に過せる環境である。幹線道路沿いには医療機関や薬局、金融機関、商業施設、個人商店等が立ち並んでいて利便性も高い立地である。

管理者及び職員は、ホーム独自の理念を玄関やリビング等に掲示し、朝礼で唱和も行って周知を図り、利用者の尊厳や人格、想いを大切にしながら、理念「一日一日を大切に相手に合わせる」介護の実施に努めている。日頃のケアの中や面会時、家族アンケート(年2回実施)、電話等で利用者や家族の意向や要望等を把握し、ミーティングや運営推進会議等で協議して改善を図っており、家族との協力体制や信頼関係が築かれている。日々の生活も各利用者の心身の状態や生活習慣に配慮し、趣味など個別の支援も取り入れながら、利用者の主体的意向を尊重したケアに取り組んでいる。

利用者の何よりも楽しみで関心も大きい日々の食事については、栄養バランスや旬の食材、好み等に配慮したメニューを管理栄養士が作成し、おせちや敬老会等の行事食、バイキング形式、弁当持参の花見、家族との会食等の工夫を行っている。また「おやつカレンダー」も作成して可能な限りおやつを手造りしており、利用者の楽しみとなっている。

管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションに努め、気軽に意見を言い合える信頼関係と協力体制を構築している。年2回実施の自己評価での意見や日頃の職員の勤務状況、健康状態、個人的な事情等を把握して、サービスの向上や働きやすい職場環境の整備を法人代表とも協議しながら取り組んでいる。ケアに対する助言・指導やスキルアップを図る研修の実施、資格取得へのバックアップも日常的に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼で理念に基づく運営方針を盛り込んだ「行動手帳」と、ながかりの理念を唱和し意識を高めて実践に臨んでいる。	理念に「一日一日を大切に相手に合わせる介護をする」を掲げ、法人全体の「行動手帳」と共に朝礼で唱和し、研修も実施して意義を共有している。全体ミーティングやユニットミーティング等でケアの振り返りや意見交換を行い、ケアの目標も設定して、理念に沿った利用者主体の暮らしの実現に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会の行事へは、職員だけではなく可能な限り入居者様も一緒に参加し地域住民との交流を図っている。（夏祭り、敬老会等）向陽小学校の職場体験の受け入れなども行っている。	町内会に加入し、清掃作業やバレーボール大会等に参加し、地域の夏祭りや敬老会等のイベント時には準備や進行役等も担っている。家族・友人の面会は頻繁にあり、施設見学、ボランティア、職場体験を積極的に受け入れ、日頃の散歩や買い物時には地域の人と会話を交わし、農産物を頂いたり認知症ケアの相談に助言する等、円滑な交流が図られている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	認知症見守りメイトの実習受け入れ施設となっており、認知症の人の理解や支援の方法を学ぶ場として提供しています。また、介護保険申請や介護相談等にも対応しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御家族に対しては年2回アンケートや調査を実施しているが、回答しやすいように無記名回答とし返信用封筒を同封している。頂いた意見については、家族会や運営推進会議にて話し合い、改善を図っている。	会議は、家族、同法人のグループホーム、小規模多機能ホーム等が参加して定期的に開催し、利用者の状況や行事の開催状況、ヒヤリハット等を報告している。また、外部講師（医師や薬局職員）による認知症ケアや感染症予防の研修や、家族アンケートで出された意見や要望等を協議してサービスの改善に繋げる等、有意義な会議となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課には事務手続き等の他にも、ケースにより相談等もさせて頂いております。長寿安心相談センターにも定期的に事業所の状況やケアサービス等について報告し、お互いに協力関係を築くように努めています。	市の担当者や長寿安心相談センター職員とは、電話や窓口に出向いて介護保険の更新や利用者のケア、各制度の相談を行い助言・指導を頂く等、かねてから協力関係を築いている。行政主催の会合や研修会等にも積極的に参加して意見や情報の交換を行い、介護相談員も受け入れて、サービスの向上に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて身体拘束について学んでいる。研修を通して身体拘束となる行為についても理解している。内から外への出入りは24時間可能ですが、二階の出入り口の扉については安全のため20時以降施錠している。	身体拘束に関しては運営規定や利用契約書に明記し、計画的な研修の実施やケアの振り返り、具体的事例による意見交換等を行って、拘束のないケアに取り組んでいる。また、不適切な言葉遣い等には、その都度注意し合って改善を図るなど、職員の認識を共有している。日中は施錠しないで、外出したがる利用者には対話や散歩への同行で安定を図るなど、自由な暮らしの支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内定期研修にて高齢者虐待防止法を学ぶ機会を盛り込み、職員全員で学んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内定期研修にて日常生活自立支援事業や成年後見制度を学ぶ機会を盛り込み、職員全員で学んでいる。入居者が必要な方にはそれらを活用できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約についての説明を行い、不安や疑問点等がないか確認をとりながら理解に努め十分に納得をして頂いた上で契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の生活の中で利用者と対話する機会をもうけるよう心掛け、自然なかたちで利用者の思いを引き出せるよう努めている。また、年2回ご家族様へアンケートを実施しており、意見については、家族会や運営推進会議にて話し合い、改善を図っている。	利用者の想いは、日頃のケアの中での対話や表情、仕草等で理解し、家族からの意見、要望は面会時の会話や電話、家族会、運営推進会議、家族アンケート（年2回）等、工夫して把握に努めている。出された意見・要望は、ミーティング等で協議して運営やサービスの改善に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が会社を書面で評価する機会、そして面談にて意見を聞く機会を設けている。また、その都度何かあれば面談を行うなど対応している。	管理者は日頃から気軽に意見を言い合える信頼関係を構築して要望等を聞き取り、自己評価（年2回実施）の際の法人に対する評価や個人面談時に意見等を把握しており、協議しながら改善を図っている。また、ケアに関する助言やスキルアップを図る研修の実施、資格取得へのバックアップ等に努め、個人的事情にも配慮して勤務シフトを作成する等、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績を踏まえて就業状況の把握に努めている。各個人の条件にも配慮し働きやすい職場環境を目指している。資格取得のための研修も受けやすいように図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>会社が立てている年間の計画を基に、毎月定期研修や勉強会が行われている。さらに、ケアの質の向上を目指して、スタッフ向けのスキルアップ勉強会を行っている。また、外部の研修の案内や介護福祉士の取得のための研修についても受講ができるように図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者・職員との研修会、食事会の機会を設けるなどして意見や要望を伝えたり、相談しやすい環境づくりを心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人との面談時に意向や思いを確認している。困りごとや不安事については改善や解消に努め、安心して入所ができるように図ります。また、信用、信頼して頂けるように関係作りにも最善を尽くします。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族についても面談時に意向や思いを確認している。困りごとや不安事については改善や解消に努め、安心して入所できるように図ります。また、信用、信頼して頂けるように関係作りにも最善を尽くします。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在の介護状況や困り事を確認し、またその背景や原因にも注目し、必要なサービスを見極めていきます。他のサービスが必要な場合には検討し提案や利用に繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で個々の能力や得意なことを活かし、また、継続できるように役割として担って頂いている。季節の行事等は知恵や技術を教わりながら、生活を共にする者同士の関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪した際は、ゆっくりと過ごして頂ける環境を提供している。また、職員より御本人の近況報告を行っている。日々の様子を知ってもらえるように「ショコラ便り」にお手紙と写真を添えて定期的にお知らせしたり、電話連絡等を行っている。行事には家族にも参加していただくことで、本人と家族の良い関係が保てるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚はもちろん、知人との面会もあり、入所前からの関係の継続が出来ている。また、馴染みのある場所では声を掛けられたりと会話を持つことがある。ご家族と馴染みのある場所へ外出もされている。	入所時の聞き取りや日頃の利用者の会話、家族からの情報等で馴染みに関する情報を共有し、心身の状態や感染症予防に配慮しながら散歩や買い物、通院、外食、地域行事、一時帰宅等を家族と協力しながら取り組んでいる。家族や友人等の来訪時には、ゆっくり面談出来るようにお茶等を配慮し、電話・手紙の取り次ぎや「ショコラ便り」で利用者の近況を伝える等、関係の継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースでの食事やお茶、活動については、利用者同士の相性や関係性等にも配慮しながら、心地よい時間を過ごして頂けるよう努めている。また、職員が間に入り、話題の提供や橋渡しを行い関わり合いが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も御家族から絵葉書が届き交流が続いている。また必要な方には相談や支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を確認している。困難な方はご家族に話を聞いたり、本人の様子から代弁している。また、本人本位で検討している。	利用者の思いを、日頃の会話や表情、独自のサイン等で把握し、理念に沿って利用者主体の暮らしとなるよう家族とも連携して取り組んでいる。全員での活動に加え、利用者が希望する趣味（縫い物、貼り絵他）や家事（炊事や食器洗い他）の取り組みも個別に支援し、それらの成果には感謝や評価を言葉で伝えて達成感が得られるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生い立ちから現在までを本人や家族からの聞き取りを行っている。医療機関や前事業所がある場合は情報提供を求め把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課に沿っての過ごし方や心身の状態、残存機能や能力について日報に記録している。朝礼時の申し送りやユニットミーティングで情報を共有し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニットミーティングにて現状の把握、課題や問題点があれば方向性を検討。見直し時は本人・家族・主治医の意向を確認し、職員の意見を反映し現状に即した介護計画の作成を行っている。	本人・家族の意向を把握し、主治医の指示、ユニットミーティング、モニタリング等での職員の意見を基に、生きがいにも着目した利用者主体の介護計画を作成している。計画の策定や実施状況の記録等は「情報共有ネットワークシステム」を活用しており、業務日報や夜勤記録等で情報を共有している。利用者の状況変化時には計画の見直しを行い、家族にも説明して理解を得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は日報に記入し、個別の支援経過記録の入力を行っている。日々の申し送りで情報を共有し、個別での取り組みや結果、気づきについては個別レク実施記録表を用いてユニットミーティングで評価や検討を行っている。介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、訪問診療、訪問歯科診療、訪問マッサージ、通院による透析治療、宅配弁当等の利用、同じ建物内の機械浴の利用等柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域とのつながりを大切に共助の関係を目指しています。近隣の方から野菜などを頂いたり、調理法を教えて頂いたり良い関係が築けています。地域のボランティアによる踊りの慰問の際は地域の方にも案内し一緒に鑑賞するなど地域に開けた施設をめざしています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の意向や適切な医療が受けられるよう、かかりつけ医の選択を行っている。通院は家族も同行を基本としているが、必要時には家族の了承のもとで職員が同行している。かかりつけ医、ご家族、事業所との連携も図れている。	本人及び家族が希望する医療機関が主治医として治療を継続しており、通院時の同行は家族と協力して実施している。訪問診療が定期的に実施され、他科受診についても家族と連携して支援している。日頃から看護師が主となって衛生や健康管理を徹底し、協力医療機関との医療連携体制も構築して適切な医療を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は看護スタッフ、医療連携看護師と入居者の情報を共有し、通常時の状態の把握、状態に変化が見られた時には、必要に応じて主治医への連絡・調整、必要な看護が受けられるよう体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は医療機関へ入居者の情報の提供を行い、入院中は面会や電話により医療連携室の相談員や入退院支援の看護師と情報交換等の連携を図っている。退院前は退院カンファに参加し専門家からの退院後の生活がスムーズに行えるように助言を受けている。また、日頃より連携が図れるように医療機関へ出向き、医療機関の状況の確認、事業所の状況についても情報提供を行い関係性の構築に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期に向けて説明し意思確認書をとっている。また重度化した場合には再度確認を行います。重度化した場合訪問看護なども利用しながら、ここでできるケアを十分に説明し納得していただいたうえで終末期ケアに入ります。	重度化や終末期のホームのケアについては「重度化した場合における指針」「看取りに関する指針」を整備しており、入所時に説明して理解を得ている。重度化した時点で家族や主治医と話し合いを行い、可能な限り希望されるケアの体制を構築して看取りを実施している。看取り後は振り返りや意見交換を行い、スキルアップや不安感の軽減を図る研修も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	@		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回行われる消防訓練においては、様々な状況を想定しての訓練に取り組んでいる。地域の方々とは日頃からお付き合いを大事にして緊急時には協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>年2回（1回は消防署立ち合い）、夜間を含む火災発生を想定した防災訓練を小規模多機能ホームと合同で実施し、併せて通報装置や消火器の取り扱いの研修も行っている。様々な災害発生を想定しての避難経路や通報等の確認に努め、普通救命講習の受講やマスコミの災害報道を話題にして防災への意識を共有している。スプリンクラーや自動通報装置が設置され、懐中電灯、カセットコンロ等を備えており、水や食料品も備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を払い、尊敬の気持ちを持って対応し言葉遣いにも気を付けている。	プライバシーの保護や個人情報の取扱いについては計画的な研修の実施で理解を共有し、尊厳や誇りを傷つけるような言動を行うことのないように利用者毎の状況も把握して対応している。不適切な発言やケアに対しては注意し合って改善を図り、入浴や排泄時の支援の際には羞恥心等にも細かに配慮している。居室やトイレ、浴室等はプライバシー保護が確保された構造で、園便りへの氏名、写真の掲載には事前に意向を確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や思いをを引き出せるように普段から関係作りに努め、環境にも配慮しています。また、表出できない方は本人の思いを代弁、または本人本位に、自己決定できるように働きかけ、その思いを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運動・脳活性プログラム等一日の流れを作りながら、利用者本人の希望やペースで参加出来るようにし、職員側の本位とならないように注意しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ホームへの出張カットを利用したり、行きつけの美容室へご家族と行ったりと、本人及び家族の希望に沿って支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の誕生日、行事には特別メニューを設けている。食事について興味を持ってもらえるよう、盛付けや配膳、片づけを一緒に行っている。年に2回バイキングも実施しています。	日常の会話から希望食等をくみ取り、法人の管理栄養士が栄養バランスや摂取カロリー等に配慮したメニューを作成しており、頂いた野菜も活用しながら代替食、盛り付けにも工夫して食事が楽しみとなるよう調理し、職員も歓談しながら一緒に食事している。正月や敬老会、誕生日等の行事食や外食、家族との会食、バイキング形式等も実施し、「おやつカレンダー」も作成して出来るだけおやつを手作りしている。利用者も食材の下処理や配膳等を楽しみながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の献立は管理栄養士にてカロリー計算されており、摂取量の記録と月1回の体重測定を実施している。また、利用者の嚥下状態に合わせて食事形態の工夫や、介護用食品も取り入れている。水分も定期的に提供し、排泄面の確認、夏場は脱水にも気をつけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔の意味を伝え毎食後口腔ケアを実施して頂いている。自力で出来る方も介助を必要とする方も口腔内の状態は把握している。必要に応じて歯科往診を依頼、定期的にメンテナンスも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、必要に応じて声掛けを行い、トイレでの排泄を促している。リハパン、パットの利用の方が多ですが、布下着の方もいらっしゃり、現状を維持できるように支援している。失敗に対しても自尊心を傷つけないように対応している。	利用者毎の排泄パターンを把握し、見守りや声かけに努めて可能な限りトイレでの排泄を支援している。一人一人の状況に応じた介護用品やケアの方法を、介護計画に反映させて取り組んでおり、リハビリパンツからパットを併用しての布パンツへの改善も見られている。便秘の予防に食物繊維や水分の摂取、運動量等を配慮し、主治医の指示も得ながら改善を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の性状や量を記録し、排便の状況を把握している。水分摂取の促しや散歩の実施（雨天時は室内レクにて歩行）や腹部マッサージ、またアルカリイオン水の飲用や食物繊維を積極的に取り入れるなどして、極力、薬に頼らないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本の入浴日（火・木・土）は決まっているがその他の日でも本人の希望があれば入浴可能である。必要に応じて、足浴・清拭も実施している。	利用者の心身の状態に配慮し、状況によってはシャワー浴や清拭に変更しながら、週3回の入浴をゆっくり楽しめるように支援している。予定外の入浴や時間、温度、同性介助、好みのシャンプー等は意向に添って柔軟に対応し、入浴をためらう利用者には、時間及び職員の変更や声かけ等を工夫して、利用者が主体的意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や身体状況、生活習慣等も考慮し安眠や休息の支援を行っている。安眠のためにも日中は活動に参加して頂き、寝具類は1週間に1回の交換、明かりや音、室温調整にも気を付け睡眠の妨げにならないように配慮している。安心して休んで頂けるように巡視も定期的に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服については薬の目的、作用・副作用、用法や用量について職員全員が把握し変更等があった場合はその都度申し送りしている。服用後の症状の変化について経過観察を行い検討している。主治医・連携看護師へも報告を行い、連携を図っている。服薬間違いがないようにWチェックを実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の盛り付けや片付け、洗濯や掃除などそれぞれの役割をもって行っている。園芸や裁縫等の趣味を取り入れ、日常生活を楽しめるようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日などには、気分転換や体力作りを兼ねて、一緒に外に出る機会をできるだけ多く作るようにしている。年間行事計画を立て、外出レクにご利用者様や家族と出かけられるように支援している。	利用者の心身の状態や天候、感染症の流行状況等に配慮しながら、日常的に園庭及び周辺の散歩や日光浴、買い物、通院等に出かけている。墓参や一時帰宅、外食等を家族の協力を得ながら取り組み、また、初詣や季節の花見、ドライブ、地域のイベント（夏祭り、敬老会他）など全員での外出も実施しており、利用者の楽しみとなっている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に本人・家族と話し合い、それぞれの入居者の管理能力等を検討し、希望に応じて支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話を所持している方もいらっしやり使用に対しては制限はない。ご家族から電話があった時には取次ぎも行っている。贈り物があったときに本人からお礼の電話をしたり、また季節のお便り（暑中見舞いや年賀状）を書く機会を設けている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは快適に気持ちよく過ごして頂ける様に音や匂い、室温なども気を付けています。また季節のお花や飾りつけをし季節感を感じる事が出来るように工夫しています。天井が高く天窓もあり明るく気持ちよく過ごせる空間となっています。	廊下やリビング等の共有スペースは余裕があり、明るく開放感に満ちて随所に活花や利用者の作品、季節に応じた展示物が飾られ、また、台所からは調理の音や匂い伝わるなど、和やかな雰囲気である。テーブルセットやテレビ等が利用者の動線や利便性に配慮して設置され、清掃や空調、衛生管理等も徹底しており、利用者は好みの場所で四季を感じながら平穩に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その時々の入居者様の気分や体調に合わせて配慮しています。気の合う方とホールで過ごしていただいたり、お一人で過ごしたい時には居室でゆっくりと過ごして頂いたりとして頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に従来使っていた馴染みの家具や装飾品を持ち込んでもらったり、希望があれば畳敷きの部屋に工夫するなど、本人が居心地良く過ごせるように工夫しています。	フローリングに腰高窓の居室は明るく余裕があり、ベッド、エアコン、洗面台、クローゼットが備えられ、また、自室を確認しやすいように入口には名前や折り紙の飾りを取り付けるなど工夫されている、利用者の意向に沿って清掃や換気等を支援し、利用者は使い慣れた寝具やテレビ、ソファ、家族写真、遺影等を持ち込み、また自身の作品等も飾って、家庭同様に居心地の良い雰囲気の居室となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人一人のできる・出来ないをアセスメントし身体状況にあわせて自立した安全な生活が送れるように配慮しています。施設内はバリアフリーで、必要な箇所には手摺りを設置しております。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない